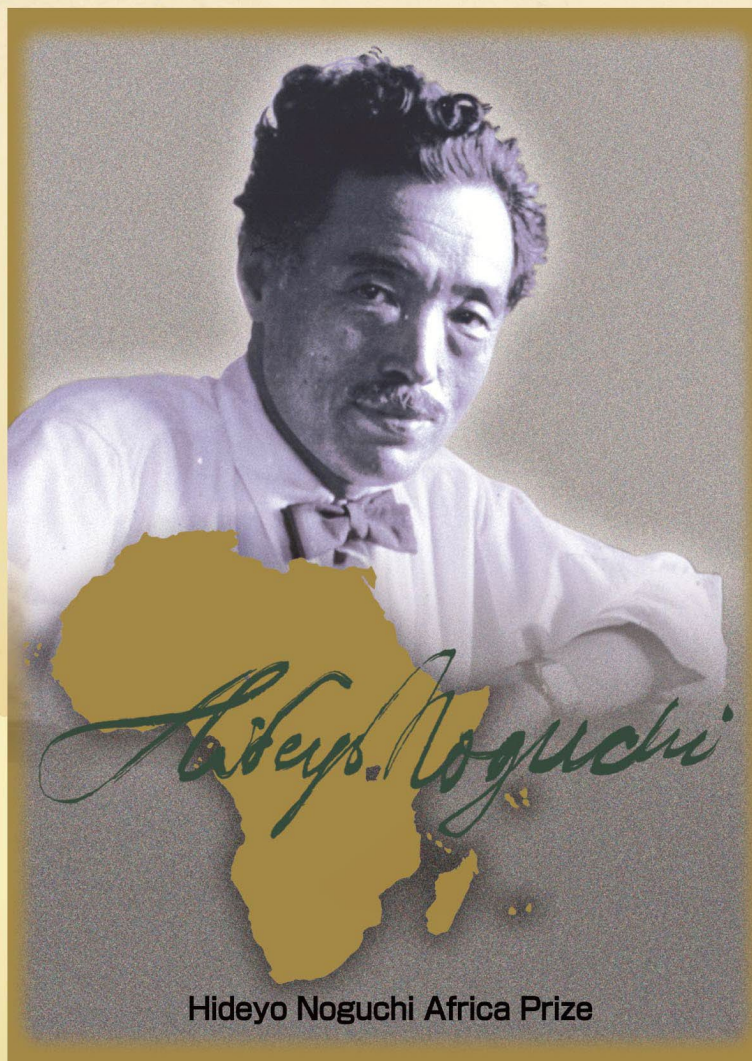




野口英世

Hideyo Noguchi Africa Prize

アフリカ賞

内閣府

「野口英世アフリカ賞」とは？

1. 目的

アフリカの地で黄熱病の研究途上で亡くなった野口英世博士の志を踏まえ、アフリカでの感染症等の疾病対策及び公衆衛生推進のため、医学研究または医療活動の各分野において顕著な功績を挙げた方々を顕彰し、もってアフリカに住む人々、ひいては人類全体の保健と福祉の向上を図ることを目的とします。

2. 対象者

- (1) 医学研究分野：基礎医学に関する研究／臨床医学に関する研究／医学に密接に関連した生命科学の諸領域の研究
- (2) 医療活動分野：現場において展開される疾病対策及び公衆衛生の改善に係る医療／公衆衛生活動

3. 候補資格及び募集要件

- 候補者の国籍・年齢・性別は問いませんが、生存者に限ります。団体の場合は、現在活動している団体に限ります。
- 医学研究分野：原則として1研究テーマにつき1名。共同研究の場合は3名を上限とします。
- 医療活動分野：原則として1名または1団体。1名以上ないし1団体以上がチームで活動する場合は3名または3団体を上限とします。

4. 授賞頻度

授賞はアフリカ開発会議（TICAD）に合わせて行われます。

第1回授賞式 2008年5月（TICAD IV）第2回授賞式 2013年6月（TICAD V）

第3回授賞式 2019年8月（TICAD 7）第4回授賞式 2022年8月（TICAD8）

2025年に日本国内において開催予定のTICAD9に合わせて第5回が授与される予定です。



TICAD とは？

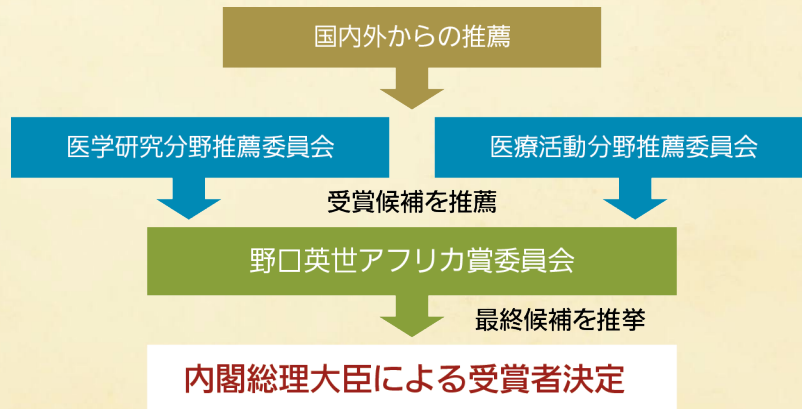
Tokyo International Conference on African Development（アフリカ開発会議）の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合委員会（AUC）及び世界銀行と共同で開催しています。2022年8月27日～28日にアフリカのチュニジアでTICAD8が開催されました。

5. 表彰内容

- (1) 授賞式において、医学研究分野及び医療活動分野のそれぞれの受賞者へ、表彰状、賞牌、賞金（1億円）を授与します。
- (2) 賞金は、政府の資金に加え、国内外の方々からのご寄付も募ります。

6. 選考

選考は、国内外の推薦を受けた者の中から、専門家により構成される分野ごとの推薦委員会が、各分野の受賞候補を最大 3 件まで絞り込みます。その中から、「野口英世アフリカ賞」委員会が最終候補者を内閣総理大臣に推挙し、内閣総理大臣が受賞者を決定します。



野口英世の生涯

野口博士は 1876 年に福島県耶麻郡三ツ和村（現猪苗代町）の貧しい農家に生まれました。1 歳半のとき囲炉裏に落ち大火傷を負い、左指が癒着し不自由な手となりましたが、小学校へ入学すると持ち前のがんばりで優秀な成績を修めました。猪苗代高等小学校在学中に、先生や生徒たちの援助で渡部鼎医師より左手の手術を受けました。そのことがきっかけとなり医師を目指し、会津若松の会陽医院の書生になります。野口博士は睡眠時間を惜しんで勉強し、1896 年、医術開業試験受験のため 19 歳で上京し、済生学舎（現日本医科大学）で学び 20 歳で医師の資格を取得しました。1900 年に渡米し、ペンシルベニア大学からデンマークに留学後、創設間もないロックフェラー医学研究所に勤務、細菌学の研究に没頭します。1911 年に梅毒スピロヘータの純粋培養に成功し、世界的に注目を集めました。1918 年から黄熱病の研究を始め、1927 年、アフリカ西海岸で発生した黄熱病の研究

及び治療のためガーナのアクラに渡りました。1928 年、研究中に自身が黄熱病に感染し、現地で亡くなりました。享年 51 歳。野口博士は、ニューヨーク・ブロンクス区のウッドローン墓地に埋葬されています。墓碑銘には「博士は、科学への献身により、人類のために生き、人類のために死せり」と書かれています。なお、野口博士は、日本の科学者として初めて日本のお札（1000 円札）の肖像に選ばれました（2004 年）。



ロックフェラー医学研究所研究室での野口英世博士
（写真：公益財団法人野口英世記念会）



ウッドローン墓地に眠る野口英世博士の墓
（写真：ニューヨーク野口英世記念会）

野口英世アフリカ賞受賞者

第1回 2008年

肩書きは受賞時のものです。

医学研究分野受賞者

ブライアン・グリーンウッド博士 (英国)

ロンドン大学衛生熱帯医学校教授



グリーンウッド博士は、アフリカでの30年以上にわたるマラリアをはじめとする感染症の多角的研究と実践対策の功績で受賞しました。

受賞後は、長崎大学とも協力してALN（アフリカ・ロンドン・ナガサキ）奨学金を創設する等、感染症、

公衆衛生、熱帯医学関係分野のアフリカの若い科学者養成に尽力されています。2012年にカナダ・ガードナー賞を受賞しました。

医療活動分野受賞者

ミリアム・ウェレ博士 (ケニア)

ケニア国家エイズ対策委員会 (NACC) 委員長



ウェレ博士は、地域レベルでの医療サービスの提供の実践面に焦点を当て、アフリカの人々の健康と福祉の増進に献身した功績で受賞しました。

受賞後は、コミュニティヘルスワーカーの養成、エイズ遺児ケア、青少年育成の活動が続ける傍ら日本

発祥の母子健康手帳のアフリカでの普及活動に尽力しました。2020年に旭日中綬章を受章しました。

第2回 2013年

肩書きは受賞時のものです。

医学研究分野受賞者

ピーター・ピオット博士 (ベルギー)

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長



ピオット博士は、HIV/エイズとエボラ出血熱を含む、アフリカ大陸の多くの地域に存在する疾病についての中心的な研究の功績で受賞しました。

受賞後は、賞金を活用し、アフリカ人学生・研究者への学資援助を行い、日本で創設されたグローバル

ヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) にも携わっています。2018年に旭日大綬章を受章しました。

医療活動分野受賞者

アレックス・G・コウティノー博士 (ウガンダ)

マケレレ大学感染症研究所所長



コウティノー博士は、アフリカにおいてHIV感染者が治療を受ける機会を増やす先駆的な活動を行った功績で受賞しました。

受賞後は、ウガンダの人々に対し、より良い医療を提供する取り組みを推進しました。複数のグローバル

ヘルスの指導的役割を担い、世界中の将来のグローバル・ヘルス・リーダーのメンターとなっています。

第3回 2019年

肩書きは受賞時のものです。

医学研究分野受賞者

ジャン＝ジャック・ムエンベ＝タムフム博士
(コンゴ民主共和国)

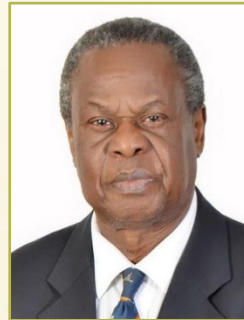
国立生物医学研究所 (INRB) 所長



ムエンベ＝タムフム博士は、エボラウイルス病等の研究及び疾病対策の人材育成において多大な貢献をした功績で受賞しました。受賞後は、エボラウイルス感染症及び新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) (2020-2022) への国家対応の調整役に任命されました。

2021年、コンゴ (民) 科学アカデミー議長に就任。2021年、アフリカ公衆衛生国際会議 (CPHIA21) にて公衆衛生特別功労賞を受賞しました。

医療活動分野受賞者

フランシス・ジャーバス・オマスワ博士
(ウガンダ)グローバルヘルスと社会変革のための
アフリカセンター (ACHEST) 所長

オマスワ博士は、保健従事者の教育、研修、定着及び移住を含む世界の保健人材 (HWF) 危機への対処、また、アフリカはじめ世界での人材重視の保健及び医療制度の構築において多大な貢献をした功績で受賞しました。受賞後は、様々な活動に

従事し 2021年、ウガンダ大統領より、ソロティ大学の初代学長に任命されました。また、「フレダ・M・オマスワ及び野口英世保健・社会センター」建設プロジェクトを実施しています。

第4回 2022年

肩書きは受賞時のものです。

医学研究分野受賞者

サリム・S・アブドゥル・カリム博士 (南アフリカ共和国)

南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター (CAPRISA) 所長

カライシャ・アブドゥル・カリム博士 (南アフリカ共和国)

南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター (CAPRISA) 次長



サリムおよびカライシャ・カリム両博士は、2002年にエイズ専門の研究機関 (CAPRISA) を南アフリカ共和国のダーバンに設立し、アフリカ人の HIV/エイズの予防と治療に重要な貢献をしてきた疫学研究夫妻です。特に、HIV/結核の重複感染者への抗レトロウイルス療法 (ART) の早期導入法の開発、アフリカ人コミュニティにおける HIV 伝播予防法の開発、HIV 予防剤の実証で多大な功績を挙げられました。

医療活動分野受賞者

ギニア虫症撲滅プログラム (米国)

米国・カーターセンター



ギニア虫症撲滅プログラムは、史上 2 番目のヒト疾患の撲滅を目的とした、カーターセンター主導の下でのアフリカ関係者とのパートナーシップによる国際的なキャンペーンです。カーターセンターの主導の下、アフリカの保健省、地域コミュニティ、非政府組織 (NGO)、及び世界保健機関 (WHO) や米国疾病予防管理センター (CDC) 等の主要パートナーとの協力により、ギニア虫症をほぼ撲滅させた功績により、団体受賞をされました。

野口英世アフリカ賞基金のためのご寄付のお願い

本賞の賞金のため、本賞の趣旨に御賛同いただける方々から広く寄付を募っています。皆さまからいただいた善意が、アフリカでの医学・医療の向上に活躍されている方々の活動のために使われます。（寄付は控除の対象になります。）

ご寄付のお申し込み

ご寄付は以下のウェブサイトからオンラインでお申し込み頂けます。
（クレジットカード、コンビニ店舗端末、ペイジーでのお支払いが可能です。）

野口英世アフリカ賞基金ホームページ

（独立行政法人 国際協力機構（JICA）サイト）

<https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/03.html>

寄付に関するお問合せ

独立行政法人 国際協力機構（JICA）

国内事業部 市民参加推進課 寄付金担当

メールアドレス：jicata-kifu1@jica.go.jp

フリーダイヤル：0800-100-5931（受付時間 平日 10：00～12：30・13：30～17：00）

FAX 番号：03-6689-4760

内閣府 野口英世アフリカ賞ホームページ

▶ <https://www.cao.go.jp/noguchisho/index.html>

内閣府 野口英世アフリカ賞 Facebook

▶ <https://www.facebook.com/hnapjp/>



内閣府 野口英世アフリカ賞ニュースレター

▶ <https://www.cao.go.jp/noguchisho/newsletter/index.html>

野口英世アフリカ賞に関するニュースレターを発行しております。
野口英世アフリカ賞基金にご寄付頂いた方、または購読をご希望の方に、無料で郵送にて配布しております。購読をご希望の方は、上記ホームページよりお申し込みいただくか、野口英世アフリカ賞担当室までご連絡ください。

野口英世博士の写真提供：公益財団法人野口英世記念会

内閣府野口英世アフリカ賞担当室

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-39 永田町合同庁舎

TEL 03-5501-1774